

## A-3 「医療現場の安全安心」

### (1) 科目の紹介

|  |                  |          |             |
|--|------------------|----------|-------------|
| 基本情報   | 平成 26 年度・教養教育・前期 | 曜日・校時    | 月 6 限       |
| モジュール名   | 安全で安心できる社会       | 科目名      | 医療現場の安全安心   |
| 教員名(所属)  | 松坂 誠應(保健学科)      |          | 教室 経済新館 101 |
| 選択者数   | 56名              | 2年生の所属学部 | 経済学部        |
| 再履修数   | 1名               | ( 56 名)  |             |
| 授業のねらい：<br>医療や介護の現場で起こる諸問題を取り上げ、人間の安心と安全とは何かを学習するとともに、自らの生活の危機管理に生かす。  |                  |          |             |
| アクティブラーニングに向けて工夫した点：<br>各教員(5名)の専門分野で話題になっている事象について講義してもらい、講義の後、科目責任者が授業のファシリテーターとして講師に質問したり、あるいは学生に質問を促すことで授業の理解を深めた。また、医療や介護に関する専門用語を出来るだけ使わず、平易な言葉で専門的知識を表現し、学生の理解に努めた。また、同じ事柄でも、重要な事項については重複を恐れず、繰り返し説明した。 |                  |          |             |

### (2) 学修の評価

|         |   |
|---------|---|
| 到達目標    | ①医療や介護現場における安心安全の内容とその背景を理解する。                              |
| 成績評価の方法 | 各講義後に提出するレポート(30%)、講義への貢献(30%)、最終講義時に提示する課題のレポート(40%)で判定する。 |

### (3) 授業の進行

| 概要：<br>当初の予定通り、各教員の講義(約60分)の後に、科目責任者がファシリテーターとして講師しつつ、学生にも質問を促した。討論 |                               |   |
|---|-------------------------------|---|
| 回   | 学習内容                          | 授業方法(講義、グループワーク、プレゼンなど)   |
| 1   | 高齢社会の問題(認知症介護の現状)<br>認知症の基礎知識 | 認知症理解のために認知症の介護現場の映像(NHK オンデマンド45分)を供覧し、認知症の基礎知識を講義。その後、質疑応答。       |
| 2   | 認知症と虐待                        | 認知症者の行動障害(徘徊、暴言等)の理解のために YouTube の動画を供覧。自らが介護者となった場合を想定し、介護のあり方を討論。 |
| 3   | 認知症になっても安全で安心な社会とは?           | 介護保険制度の限界についての講義の後、認知症介護の映像を供覧し、                                    |

|    |  |  |
|----|--|--|
|    |  | 「安全で安心な社会」について討論   |
| 4  | 遺伝相談と安心<br>出生前診断                             | 出生前診断の概要と診断を受けるために来院した女性の心理について講義し、遺伝と安心について討論             |
| 5  | 遺伝相談と安心<br>家族性腫瘍                             | 遺伝検査と家族性腫瘍の治療について講義し、遺伝疾患の治療のあり方、偏見・差別について討論               |
| 6  | 遺伝相談と安心<br>遺伝疾患とカウンセリング                      | 遺伝疾患を抱えた患者家族の心理とカウンセリングのあり方を講義し、患者家族の立場から遺伝相談・医療のあり方について討論 |
| 7  | 病院での安全安心<br>患者の安全を確保するための看護の取り組み<br>(ヒヤリハット) | 看護の取り組み(ヒヤリハット)を紹介し、安全であるべき病院環境の問題、危機管理の考え方について討論          |
| 8  | 病院での安全安心<br>患者の安心を確保するための看護の取り組み             | 患者が抱く不安を緩和する取り組みを紹介。看護の取り組みを通して不安への対応について討論                |
| 9  | 病院での安全安心<br>腎機能不全患者の治療を通して                   | 腎機能不全患者の治療(透析、腎移植)を通して治療決定までの患者の心理を学び、討論                   |
| 10 | 医療の不確実性(合併症と医療過誤)                            | 医療過誤の事例を示し、合併症と医療過誤の発生メカニズムを考察し、ヒューマンエラーについて討論             |
| 11 | 医療の不確実性(合併症と医療過誤)                            | 医療過誤予防のマネジメントについて講義し、医療現場の危機管理を通して生活一般の危機管理を討論             |
| 12 | 医療の不確実性(合併症と医療過誤)                            | 現代医療の根底に横たわる「不確実性」を講義し、それを取り巻く医療者・患者の関係のあり方について討論          |
| 13 | 歯科領域の医療事故                                    | 医療事故の事例を説明し、ヒューマンエラーのメカニズムについて討論                           |
| 14 | 摂食嚥下と口腔ケア<br>誤嚥性肺炎の予防                        | 誤嚥性肺炎の予防としての口腔ケアについて講義し、高齢者のケアのあり方について討論                   |
| 15 | 摂食嚥下と口腔ケア<br>胃瘻による栄養補給                       | 胃瘻による栄養補給について講義し、食のあり方や嚥下障害のある高齢者のQOLを討論                   |

#### (4) 授業の成果

|        |   |
|--------|---|
| 全体の総括  | 学生による授業評価の「授業担当者の教え方」は 4.21、「総合満足度」は 4.0 で、医療的な知識のない学生に対する授業としては満足できるものと判断した。年齢の高い学生（50 歳代）が積極的に討論に参加することでほかの学生も討論に参加するようになったが、無気力な学生も一部見られた。4 年生の学生（再履修？）の出席が悪かった。 |
| 今後の改善点 | 学生の生活に関係の深いテーマを取り上げる。<br>医療現場の安全安心は危機管理そのものであり、学生の生活や専門分野と関連づけて授業することが必要。<br>教室の環境をグループ活動が出来るように変えてほしい。   |

#### (5) アクティブ・ラーニングの充実にに向けた提案

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| ポイント提案  | 教室の環境設定<br>学生の生活に関係したテーマ設定 |
| 参考になる資料 |                            |